



選挙は十二月十二日に投票が行われ、葛塚小学校体育館で即日開票されました。豊栄市の投票率は四二・一九で、投票区別では、最高が第一投票区(母子健康センター)の五六・四三、最低が第三投票区(浦ノ入公民館)の一・七九となっています。以下豊栄市の結果は次のとおりです。

十二月五日投票が行われた衆議院議員選挙は、葛塚小学校体育館で即日開票。豊栄市の投票率は七八・三九で、先回(昭和四十七年十一月)の七八・四八を下まわりました。地区別では葛塚地区と長浦地区が高い投票率を示しており、最高は第一投票区(母子健康センター)の八六・七〇、ついで第十九投票区(稲葉 修 一、二〇七票

はたの進一 一、一八八票
阿部 助哉 六、六五三票
木村 善策 一、一六三票
佐藤 隆 五、八五八票
渡辺 雄三 二、九二〇票
松沢 俊昭 一、六五八票

有権者数 二六、八三五人
投票総数 二二、〇三六票
有効投票 二〇、六四七票
無効投票 三、八九九票
投票率 男七九・六〇、女七七・二六、計七八・三九

参議院補選は
四二区投票率
参議院新潟県選出議員補欠
寄せられました。この中には十一月二十日に市婦人会と民生委員婦人が行った街頭募金で募った二十五万八千八百十三円、市消防本部の職員からの七千八百円、岡方中学校からの千二百六十円などが含まれています。

災害見舞金募金で感謝状 中央共同募金会から市が

十七号台風災害見舞金では市民の皆さんから合計百五十万一千五百八十円という多額の寄付が寄せられました。これに対して豊栄市と、ひとりごとと働いて貯めたお金十万円を寄付された渡辺サトミさん(浦ノ入)に、酒田大火に見舞金募金は、十一月三十日で締切られ、合計七万二千九百円の善意が寄せられました。

酒田大火に 十七万円の善意

酒田大火の焼切られ、十一月三十日で締切られ、合計七万二千九百円の善意が寄せられました。

市議会臨時会

市議会第四回臨時会は、十一月二十九日に招集されました。人事院勧告に基づき、市議員の給与改定のための条例改正およびこれに伴う六千三百五十八万一千円の一一般会計予算の追加を決めました。市議会十二月定例会は、十二月二十一日に招集されました。

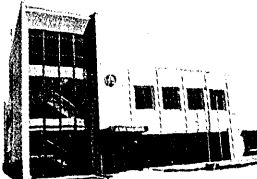
寄附ありがとうございました。この中には十一月二十日に市婦人会と民生委員婦人が行った街頭募金で募った二十五万八千八百十三円、市消防本部の職員からの七千八百円、岡方中学校からの千二百六十円などが含まれています。

工事中です



(工事名、請負金額、請負者 完成予定月日、施工地の順)
○高森、森下線舗装工事、五百八十万円、中野建設工業(株)、五十二年二月六日、高森
○長場、内沼、新鼻、新鼻甲線舗装工事、七百六十万円、日本道路舗装支店、五十二年三月十七日、内沼
○上六月、平林線舗装工事、六百九十万円、丸運建設(株)、五十二年三月十七日、上堀田

長浦農協 事務所完成



六月から工事が進められていた長浦農協(芳賀銀次郎組合長)組合員千人の事務所が完成し十二月十四日、農協関係者で喜びのしんぐ式を行いました。新事務所は、いままでの事務所すく裏手、二、七二二平方メートルの敷地に、一部三階建ての鉄筋コンクリート造りの近代的な建物です。なお、旧事務所は老朽がひどいので取壊し、敷地は駐車場にする予定です。

市道認定に基準

4メートル以上の幅員などが条件 国県市道に接続

私道や農道の利用が増えているので市道に編入して、市で道路管理をやってもらいたい。このような趣旨の請願が、ことしにはいってからでも十九件も市議会へ提出されました。こうしたなかで、市では十一月一日付で「市道認定基準に関する要綱」を定めました。たとえば、市内の道路を名の付くものをすべて市道に認定して市で管理することができれば理想的かもしれませんが、公益上本当に市道にすることが必要かどうか、あるいは市道にすることによるその後の管理上の問題や財政負担の問題などが解決しなければならぬことは当然でしょう。

市道に認定するには市議会の議決を得ることが必要ですが、その前提として市道としての基準を定めて道路管理の適正化を図ることとしたものです。

市道認定の基準

- 道路の幅員(路面)は四メートル以上のものとします。ただし、次のような道路は例外として認めます。
 - 起点・終点ともに既存の市道や国・県道等に接続していること
 - 道路敷地の境界が明らかで、権原の取得が可能でかつ無償であること
 - 道路の利用状況が一般市道と同等と認められること
- 市道認定の手続
 - 市道の認定を受けようとするときは、次の書類を市長に提出することが必要です。
 - 認定申請書
 - 一般平面図
 - 土地所有者および権利者の認定同意書
 - 道路構造物(橋りょう)暗きよ、その他工作物)管理引継書
 - 更正図(道路占用物件状況図)

内島見を集出荷施設 五百七十農家を対象

農産物の本格的な集出荷施設の建設工事が、内島見地区(県道高見浜豊栄線の内島見十字路、たばこ集荷場となり)ではじまりました。これは市の転作集出荷施設推進事業として、木崎農協(土佐伊一組合長)が事業主体となつて、一億円以上の事業費をかけて実施するものです。ここには千八百平方メートルの規模を持つ集出荷場(鉄骨造集積機二台、結束機、フォークリフト、コンテナなどの施設が整えられます。事業費のうち国の補助金は四千三百五十万円ほどで、市からは二百



早ければ来年の花見も期待(できるという苗木の積おろし)

桜五百本植えました 日本校の会(船田中会長) 日本東京都から桜の苗木五百本(そめい吉野二百五十本、八重桜百五十本、山桜百本)の寄贈がありました。この苗木が送られてきました。市では、葛塚小学校前の銅屋川跡の東部緑道からつながらる島湯放水路予定地(旧小湯)の堤防を中心に植樹しました。また、緑の少ない早通南、早通北の児童公園にも移植しました。苗木は、高さ五、六メートルのものもあり、はやくは来春、桜の花見ができるのではないかと、公園管理担当の都市開発課では期待しています。